

いまばりPTA 親子フェスタ



環境問題と科学実験、パフォーマンスを融合した「環境パフォーマンス」



平成三十一年一月二十七日（日）、波方公民館において「平成三十年度いまばりPTA親子フェスタ」が開催されました。今年度は、テレビなど各メディアで子供達に大人気のエコ実験パフォーマンス「らんま先生」の講演をメインに据え、去年に引き続き「きつさんの手作りおもちゃ」コーナーなど子供と親子で参加できる内容となりました。このほかロビーや大ホール前などでPTAカレンダー表紙絵画作品の展示・投票や、今年度広報紙コンクール応募作品の展示、今治こども安心パトロール隊の活動報告のブースが設けられました。

開始時間の十三時三十分からは、まず市P連織田会長、県P連行天会長の挨拶、八木教育長様の祝辞が述べられました。続いての表彰行事では、今年もPTA活動においてたくさ

んの個人・団体の受賞者がおられ、盛大に表彰されました。今治市の子供達のために、各PTA会員の方々が日々精力的に活動された結果だと思えます。本当におめでとうございました。

十四時からはアトラクションとして「来島水軍狼火太鼓」の演奏が行われました。一曲「来島の風」が演奏された後、来場された子供達の中から三名選ばれて、壇上で太鼓体験をしました。三三七拍子のリズムに合わせて太鼓を叩く練習をした後、今子供達ががんばっていることを発表してもらい、それをみんなで太鼓で応援するといった形で行われました。最初は緊張していた子供達でしたが、メンバーの方々の明るい笑顔と手拍子にも乗せられて、元気がいっぱい目くことが出来ました。その後二曲目の「興郷楽」が威勢よく演奏され締めくくりました。音楽は年齢・性別問わず、みんなが明るく楽しくなるすばらしいものだと思えました。

休憩をはさんで十四時四十分

から、本日のメインイベントである「らんま先生」の講演が行われました。紹介のアナウンスがされる前の準備の時間から、ステージ前に陣取った子供達のハートを鷲掴みにするパフォーマンスはさすがでした。会場全体のボルテージが上がった中、まず披露されたのは中国ゴマによるジャグリングでした。テレビではなんとなく見ていただけですが、実際目の前で見ると本当にすごい！と思いました。PTA会員の方も体験チャレンジしてみたいです。プロの演技というものは素質以上に日々の修練が必要ですね。他にも講演内で皿回し、クラブトスジャグリングなど、様々な種類の技を披露されたのですが、一番感じたことは、ジャグリングというのには、遠心力とかジャイロ効果とか自然に存在するエネルギーを使って行うもので、らんま先生がエコと結びつけたのもなるほ



どー！と思いました。エコ実験では、空気圧を使ったロケット実験、「一瞬でベツトボトルの色が透明になる実験」、「大気圧、表面張力を利用したこぼれない水の実験」、「ギネスにも認定された巨大空気砲」などが行われました。それぞれの実験の際には壇上で子供達と一緒に実験をし、うまくいった後はパルーニアートのプレゼントがありました。先生の巧みな話術もあり、「実験をやりたい人は手を挙げて！」と呼びかけたらほとんどの子供達が大きな声を上げて手を挙げていました。盛り上がった実験の間には、地球の環境問題の話もされていました。ボランティア活動の経験談を通じて、世界各地の環境汚染・環境破壊を子供達に説明しました。これから自分達が考えなければならぬことや、やらなければいけないことを真剣に聞く子供達の姿を見て、教えたことや伝えたいことがなかなかうまくいかない私にとって、興味をもたせる話し方等、すごく勉強になりました。

閉会の行事もできないほど、講演時間が終わっても時間いっぱいまで子供達に空気砲の体験をさせていただきました。参加した子供達にとって、今回の講演は学校や家庭では習うことが出来ない貴重な経験になったと思います。らんま先生の講演を見逃した方や、もっとエコ実験の事を知りたい！って思う子供達がおられましたら、インターネットで検索すればすぐに出てきますので見せてあげてください。普段の生活の中でも「自然の価値観」が変わることと請け合いです。

輝くひびき

第26号

平成31年3月15日発行
今治市PTA連合会
ホームページアドレス
<http://www.imabaritypta.jp>

平成30年度 広報紙コンクール 特別審査員 講評 平成31年2月9日開催 場所 中央公民館

愛媛新聞社東予支社
今治編集部長 岩本 仁 様

各校の広報紙作成に関するアンケートにありますが、読者に手に取ってもらえるよう、どのように工夫しているかという視点で審査させていただきます。

中学校では日吉が、表紙写真にインパクトがあり、平成最後ということで載せた年表も、家庭教育学級のレイアウトも秀逸でした。立花の2ページにわたる生徒・保護者アンケートも、読ませたいという思いが伝わってきました。

ただ、複数校で校長先生やPTA会長の挨拶が巻頭を飾っていたのが気になりました。伝統のスタイルを壊すのは難しいとは思いますが、やはり紙面の主役は生徒・児童ではないでしょうか。

表紙は広報紙の顔・看板で、何を持ってくるかが大事なポイントです。色々な刊行物がある中で、多忙な皆さんが素通りすることなく、あつ、これ何だろう？と手に取ってもらいたいインパクトのある写真を使うのは王道です。近見中が豪雨被害の状況を伝えていました。時事的な今しか書けないトピックスを積極的に取り入れるといいでしょう。

全体的に、ほとんどの保護者が見ている運動会など大きな行事に、かなりの紙面がさかれ、写真が多用されていますが、逆に多くの保護者が知らない行事や、関心の高いテーマのアンケート結果などを伝えるのが、PTA広報紙の大きな役割ではないかと思えます。



もインパクトがあり、スマホ・ネットのアンケートも良かったです。レイアウトも全体的に凝っていましたが、横組みでページの端から端まで読ませる部分があり、少ししんどいと思います。鳥生も力作ですが、写真の大きさがそろい気味で、表紙にもインパクトを持たせなかったです。行事の記事も切り詰め、1/2成人式の保護者アンケートを膨らませると良かったです。常盤もスマホのアンケート、ALTのインタビューが良かったです。ただ、表紙の校舎写真はインパクト大ですが、人がまったく写っていないので寂しい印象を受けます。あと、ページ最下部に配置された写真がありますが、せっかく読者の目を引きつけても下に記事がないので視覚効果を発揮できません。見た目のバランスも下が重くなるので、なるべく避けてください。

広報紙にはやはり、作り手から一方的に発信するだけでなく、アンケートやインタビューで保護者、教職員、地域の声をくみ上げ伝えることも必要だと思えます。桜井の家訓・ルールのアンケートなど児童の声でもよく、そうした声が少しでもあれば広報紙が生き生きします。

今治教育推進協議会
副会長 河上 貴之 様

広報部の皆さんは、毎年、愛媛新聞さんの広報研修を受講いただき、どうい風にすれば読んでもらえるかを考えながら、見出し・写真・表紙・構成といった基本の部分はほぼ出来ていたと思えます。細かい部分ですが、写真に添えるひと言コメント（解説）があまり見受けられなかったもので、その辺りを工夫されるともっと良くなると思えました。

見てもらうための紙面作り、PTAとして今何を考えているか、といった情報をキャッチして、PTAに関心のない方にも発信している広報紙は読み応えがありました。

読みやすさ・内容・企画が審査ポイントであることが知らされていく中で、運動会等一人でも多くの子の写真を載せたいというジレンマが（経験上）あると思います。インパクトのある写真を持つてきたり、広報部として企画ものを発信する、といった視点で、読んでくれる紙面作りを進めていってください。

広報部員減少や予算の少ない中、学年毎に紙面工夫している広報紙が印象に残った一方、コンクールに参加されていない学校があり残念に思いました。色々な学校と交流する（情報交換する）場として広報紙研修会を活用し、コンクールに参加していただき、行事以外の企画も発信していただきたいと思います。

今治市教育委員会 学校教育課
村上 才一 様

今回はじめて審査をさせていただきます。どの学校の広報紙からも、子供達が学校や地域でいきいきと活動する姿、担当者の方々が苦労しながらも楽しみながら取材して編集している様子が伝わってきました。

広報紙作りアンケートからも、一人でも多くの写真が載るようにした・より多くの情報が写っている写真を選んだ・家族の会話を組んだといった、限られた紙面の中にいかに読者を引き付けるか、どうい内容盛り込むかが、試行錯誤していることがうかがえました。

イベントとしては大きなものではありませんが、心に残る素敵な企画もありました。

私事ではありますが、最近小学校の頃の広報紙を実家で見つけました。懐かしい学校の様子・先生方・地域の方々が載っている姿を見て、家族で思い出話に花を咲かせる出来事がありました。

今デジタルの時代ではありますが、子どもたちや保護者の記憶や記録に残る広報紙の作成に携わってくださった皆さんに感謝いたします。



H30年度広報紙コンクール 受賞校

- | | | |
|--------|-------|-------|
| 最優秀賞 | 吹揚小学校 | 日吉中学校 |
| 優秀賞 | 常盤小学校 | 立花中学校 |
| | 鴨部小学校 | 桜井中学校 |
| 市P連会長賞 | 富田小学校 | |
| 特別審査員賞 | 鳥生小学校 | |
| ミニコミ賞 | 日高小学校 | 南中学校 |

編集後記

知識も経験もないまま輝くひとみ作成に携わることになり、責任感や不安感の重圧の中スタートしましたが、経験豊富な先輩方や頼りになる仲間達のおかげで無事今回も発行することができました。

今年度は本県で行われた四国ブロック大会のお手伝いなど、今治市内外でたくさんの方々と交流させていただく機会がありました。この経験はPTA活動のみならず、自分自身の成長にも繋がった一年となりました。また、豪雨災害の復興支援活動や、学校のエアコン設置問題などを通じて、子供達のために自分達は何ができるか、何をすべきかを考えさせられました。親子フェスタでのらんま先生の講演においては、学校や家庭だけでは教えきれない大切なものを学ぶことが出来ました。

今後も私たちの大切な子どもたちが健やかに成長出来る様、市PTA会員の皆様一丸となって頑張っていきたいと思います！

猛暑対策への取り組み ～「市内小中学校へのエアコンの早期設置」の要望書を提出～

今年度の夏は、記録的な猛暑でした。という言葉を近年では夏が来るたびに使っています。例年に違わず平成三十年の夏も災害レベルとも言える暑さが続き、全国的にも今治においても学校生活における児童生徒の安全・健康が心配されるようになってきました。

このような状況の中、役員をはじめ、各単位PTAやその他の方々より、「市内小中学校へのエアコン設置要望」に関するご意見が、PTA連合会へも多く届けられるようになりました。

同じくして国としても猛暑対策の検討をはじめ、今治市においても市内小中学校へのエアコン設置に向けての取り組みが始まっているとのことでしたが、市内の「全普通教室」への設置という大規模な事業を鑑み、相当な時間が必要となることも想像できましたので、十月十九日、織田会長と久米顧問(前会長)が教育委員会へ訪問し、今治市教育長に対して、市内の単位PTAからの要望も合わせて、可能な限りの早期設置のお願いをお届けさせていただきました。

既に今治市におきましても、来年度末までの市内小中学校全普通教室への設置計画が進んでおります。

市P連としまして、単位PTAが取り組み「猛暑対策」の情報共有や「啓発活動」など、できることををみんな考えながら、一つ一つ取り組んでまいりたいと考えております。

ご理解・ご協力のおかげで、かよるしくお願いいたします。



平成30年度 今治市PTA連合会 情報交換会

子どもの読書活動推進事業 (県委託事業)

平成三十年十一月二十五日(日)、旧今治コンピュータカレッジ多目的ホール(今治市東門町五丁目)において、今治市PTA連合会情報交換会が県委託事業として開催されました。

会場ではまず玉川町を中心に活動されているおはなシクラブ玉手箱の皆様によるエプロンシアター「おむすびころりん」から始まり玉川町の民話紙芝居「神さんの投げた石」(「たからげた」を披露していただき、手話歌「にじ」を会場にいる全員で、玉手箱のメンバー一名によるギター演奏にのせて歌い、子どもが本に親しみを持ち読書の楽しさ、大切さをこの講演にて伝えていただきました。

その後のグループミーティングでは、今の子ども達にはあまり本を読まない、外で遊ばないとの意見が出され、どうすれば子ども達が読書をするかが話し合われました。

メディアが普及した今、どうすれば子ども達が読書をするようになるのか考え、読書の大切さ、楽しさ、を子ども達に伝えて行きたいものです。



平成30年7月豪雨災害において被災した単位PTAに対する義援金について

昨年の豪雨災害に際し、被災した単位PTA・学校を支援するため、愛媛県下、四つのPTA等連合会が一つになり義援金の募集がありました。

(愛媛県高等学校PTA連合会・愛媛県立私立中等高等学校保護者会連合会・愛媛県PTA連合会・愛媛県公立幼稚園・こども園PTA連合会)

今治市PTA連合会としましても当該活動に賛同して、市P連及び役員有志としても義援金に協力をいたしました。市内単位PTAへの呼びかけに際しては多くのご賛同をいただき、行事での義援金箱の設置などそれぞれに力強いご協力をいただきました。

ご支援をいただきました単位PTA様や会員様、また、賛同していただいた個人の皆様には、心より深く感謝申し上げます。

あらゆる力が結集され、総額8,564,970円の義援金が寄せられ、被害報告のあった四十八団体に対し、被害の度合いに応じて分配が行われたとの報告を受けております。

被災した園・学校においては、PTA活動の備品及び学校の教育環境整備に必要な費用等に活用されることとします。

なお、これらの報告はこの度の四つのPTA等連合会からの御礼の文書にも基づいております。



日本PTA全国研究大会 新潟大会



平成三十年八月二十四日(金) から二十五日(土)、今年度は新潟県において日本PTA全国研究大会新潟大会が行われ、今治市PTA連合会からも会長以下副会長二名の三名で参加しました。

一日目は新潟県内各地において分科会が行われ、PTA活動に於いて有用なあらゆる分野の各種講演が行われたのですが、ちょうどその頃日本列島を通過した台風二十号の通過による足止めにより今治組の現地入りは夜となってしまい、分科会の参加が叶わなというトラブルに……。

気を取り直しての二十五日、長岡市で行われた全体会では天候も回復し、八月の暑さとともに日本全国から寄り集ったPTA会員の熱気の中で盛大に開催されました。

新潟には、教育にかける「米百俵の精神」という有名な言葉があります。これは、大会スローガン「教育は未来を拓く、新潟発米百俵の精神」にもなっており、新潟の方々の教育にかける合言葉ともなっており、式典においても知事や市長などの挨拶の中で必ずと言っていいほどに引用されておりました。

同じく、大会趣旨としても打ち出されておりましたので、以下に引用し、新潟のみならず、今治の子ども達の未来を願う、我々の活動の一助となることを願いつつ、報告いたします。

「越後新潟は、「米百俵の精神」の地です。「百俵の米も、食べばたちまちなくなるが、教育にあてれば、明日の一万、百万俵となる。」と藩士を諭し、救済米を売り、国漢学校を建て、故郷の未来を教育に託した小林虎三郎の想いを、全国から集うPTA会員と語り合うことで、教育、子育ての意義を再確認すると共に、今後のPTA活動の意欲付けとします。

第四十七回 日本PTA四国ブロック研究大会 愛媛大会

平成三十年十月二十一日(日) 第四十七回日本PTA四国ブロック研究大会愛媛大会が開催されました。

大会スローガン「愛の手で未来を築くPTA」(愛顔(えがお)あふれる子どもたちとともに)を掲げ、四国四県から約1700人が一堂に集結しました。

特別分科会は、「坊っちゃん劇場アウトリーチ事業部」の皆さんによる、歌と朗読を交えた防災教育についての公演でした。

四国八十八ヶ所の歴史を盛り込んだ温かい内容で、「生きていることに感謝して生きる」「おかげ様の気持ちを持つて生きる」ことの大切さを学びました。

アトラクションでは、能島水軍太鼓保存会の皆さんによる太鼓の演奏と、愛媛県立松山西中等教育学校書道部の皆さんによる、書道パフォーマンスが披露されました。

身体中に響く、エネルギーに満ち溢れた太鼓の演奏と、迫力ある筆運びを間近で見ると素晴らしさを体感できました。

今回は四国ブロック大会の開催地ということもあり、大勢の市P役員がお手伝い、また出席しました。

子どもたちの健全育成を図り、PTA会員同士の連帯感を向上させるため、大変有意義な大会となりました。



今治市PTA三区研修会

平成三十年八月二十六日(日)三区研修会が伯方町のドルフィンファームしまなみにて鳥獣部PTA約三十名参加のもと開催されました。

場内多数の他の見学者、体験者で賑わっている中、まず、ドリフィンファームの石田代表からファームの歴史や目的の説明をいただき、スタッフからイルカの特徴や種類について説明いただきました。

その後、施設内の棧橋へと足を進め飼育しているイルカやクジラを間近で見学することができました。体験コースで入場している他の利用者も普段ではできないイルカとの触れ合いをとても楽しそうに体験していました。

また、今年度からオートキャンプ場コテージなども新設され、より充実した1日を過ごそうと観光客で賑わっていました。

伯方町在住の方にとっては既に慣れ親しんでいますが、日本最大のイルカとクジラふれあい施設として近隣の伯方ビーチ、道の駅も含め全国各地からの観光の場としてもよく利用されている人気のスポットです。一般の入場および体験については有料とはなっていますが、ぜひ機会があれば訪れてみてはいかがでしょうか。

